

1 秋冬ねぎ

病害虫名	発生時期	発生量	予報の根拠
さび病	—	少	・巡回調査の結果、発生は確認されなかった。(/-) ・15～20℃の気温と多湿が発生に好適である。向こう1か月の平均気温は高く(/-), 降水量は多いと予報されている。(/+)
べと病	—	平年並	・巡回調査の結果、発生地点率は平年よりやや高かったが、発病株率及び発病度は平年並であった。(/±~+) ・15～20℃の気温と多湿が発生に好適である。向こう1か月の平均気温は高く(/-), 降水量は多いと予報されている。(/+)
黒斑病・葉枯病	—	やや多	・巡回調査の結果、発生地点率、発病株率及び発病度は平年並であった。(/±) ・多湿が発生に好適であり、向こう1か月の降水量は多いと予報されている。(/+)
ネギアザミウマ	—	平年並	・巡回調査の結果、発生地点率は平年よりやや高く、上位3葉における被害株率及び被害度は平年より高かった。(/+) ・乾燥が発生に好適であるが、向こう1か月の降水量は多いと予報されている。(/-)
ネギハモグリバエ	—	平年並	・巡回調査の結果、発生地点率、最大被害葉における被害株率及び被害度はいずれも平年よりやや高かった。(/+) ・乾燥が発生に好適であるが、向こう1か月の降水量は多いと予報されている。(/-)

※ 予報の根拠（発生時期 / 発生量）

発生時期・・・(+):遅くなる要因 (±):平年並になる要因 (-):早くなる要因 (空欄):該当せず
発生量・・・(+):多くなる要因 (±):平年並になる要因 (-):少なくなる要因 (空欄):該当せず

より詳しい内容は、下記HPでご確認ください。

宮城県病害虫防除所 <https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/byogai/>

次回、発生予報第8号の発行日は、10月14日(金)の予定です

★宮城県病害虫防除所から『メルマガ』配信中★



宮城県病害虫防除所 メルマガ
トップページ 登録フォーム

ー収穫期までの発生予報と防除のポイントー

巡回調査:9月6～9日

天候予報:仙台管区气象台9月15日発表

1 発生予報

病害虫名	発生時期	発生量
さび病	ー	少

予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、発生は確認されなかった。
- (2)15～20℃の気温と多湿が発生に好適である。向こう1か月の平均気温は高く、降水量は多いと予報されている。

病害虫名	発生時期	発生量
べと病	ー	平年並

予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、発生地点率は平年よりやや高かったが、発病株率及び発病度は平年並であった。
- (2)15～20℃の気温と多湿が発生に好適である。向こう1か月の平均気温は高く、降水量は多いと予報されている。

病害虫名	発生時期	発生量
黒斑病・葉枯病	ー	やや多

予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、発生地点率、発病株率及び発病度は平年並であった。
- (2)多湿が発生に好適であり、向こう1か月の降水量は多いと予報されている。

病害虫名	発生時期	発生量
ネギアザミウマ	ー	平年並

予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、発生地点率は平年よりやや高く、上位3葉における被害株率及び被害度は平年より高かった。
- (2)乾燥が発生に好適であるが、向こう1か月の降水量は多いと予報されている。

病害虫名	発生時期	発生量
ネギハモグリバエ	ー	平年並

予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、発生地点率、最大被害葉における被害株率及び被害度はいずれも平年よりやや高かった。
- (2)乾燥が発生に好適であるが、向こう1か月の降水量は多いと予報されている。

2 防除のポイント

(1) 共通事項

- ・病害虫の薬剤抵抗性発達防止のため、RAC コードが同じ薬剤の連用を避け、計画的にローテーション散布を行う。
 - ※FRACコード^{エフラック}:殺菌剤の有効成分を作用機構別にグループ分けし、アルファベットまたは数字で表したもの。
 - ※IRACコード^{アイラック}:殺虫剤の有効成分を作用機構別にグループ分けし、アルファベットまたは数字で表したもの。
(参考:農薬工業会ホームページ農薬の作用機構分類 <https://www.jcpa.or.jp/labo/mechanism.html>)
- ・出荷時の品質低下を防ぐため、発病葉位と収穫時期を考慮した薬剤防除を行う。
- ・台風等の大雨により浸水・冠水しやすいほ場では、明きよを設置するなど、事前の排水対策を行なう。また、茎葉等に泥水などが付着した場合は、動噴等で洗い流した後、殺菌剤を散布する。
- ・ねぎの病害虫は、にんにくやたまねぎにも発生するので、近接するほ場でこれらの作物を栽培する場合は特に注意する。

(2) さび病, ベと病, 黒斑病・葉枯病

- ・すでに病斑が見られ、発生に好適な条件が続く場合は、7～10 日間隔で薬剤防除を実施する。
- ・草勢が衰えると多発する傾向があるので、適正な肥培管理を行う。

(3) ネギアザミウマ, ネギハモグリバエ, ネギコガ

- ・ほ場内及びほ場周辺の雑草は、これら害虫の発生源となるので除草に努める。
- ・これら害虫は野外越冬が可能なので、多発したほ場では、翌年の防除対策を徹底する。
- ・ネギアザミウマは、ウイルス病を媒介することがあり、ほ場には卵から成虫まで異なる生育ステージが混在する。多発時には薬剤の散布間隔を短くするなどの対策を行う。
- ・令和2年度に、従来のネギハモグリバエとは異なり、著しい食害痕を呈する別系統(バイオタイプ B)の発生が確認された。本タイプによる被害は今回の巡回調査でも複数地点で確認され、発生地点も拡大傾向にある。よって、発生に注意するとともに、防除の徹底がより重要である。詳細は下記の特報を参照。
 - ※令和2年度発生予察情報 特殊報第3号「ネギハモグリバエ(別系統)の発生について」
https://www.pref.miyagi.jp/documents/8608/844860_1.pdf

《お問い合わせ先》

宮城県病害虫防除所

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL:022-275-8982 FAX:022-276-0429

E-mail:byogai@pref.miyagi.lg.jp

★宮城県病害虫防除所から『メルマガ』配信中★



宮城県病害虫防除所
トップページ



メルマガ
登録フォーム